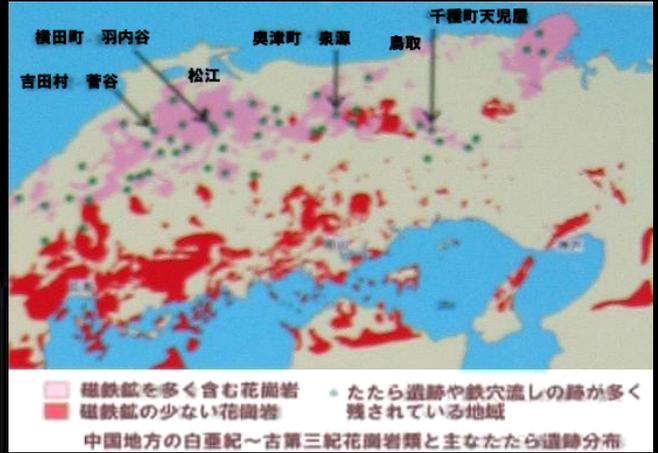


砂鉄ともうひとつの製鉄原料

1. 砂鉄を育んだ花崗岩類

兵庫県立人と自然の博物館 先山 徹氏

「赤穂に塩田を作り出した播磨北部のたたら製鉄」より



2. 餅鉄

山中の鉄鉱石（磁鉄鉱）が川を流れ下る間に砕かれ、丸い粒状になったもので、川の中にある。

釜石周辺の北上山地から流れ下る川で今も産出



餅鉄の産地 北上山地 釜石より 北上山地 仙人峠付近

3. 高師小僧

豊橋市田高師台 高師台中学周辺で 2003.11.12.

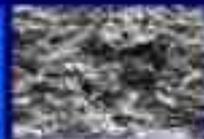


芝橋の東 護美半島の根っこ 葦が一面に広がる高師ヶ原
 今 この台地では、雨上がり表面の土が濡れると
 赤鉄の小僧が顔をのぞかせる
 葦の根に吸い寄せられた鉄分が長い時間をかけて
 根の周りに付着析出して棒状に成長する。
 それが今顔をのぞかせ、「高師小僧」と呼ばれる



褐鉄鉱の一種「高師小僧」

高師台で高師草が殖した土にバクテリアの存在で、
 葦の根りなどに生着し成長した褐鉄鉱の一種
 針鉄鉱が主成分の鉄鉱として3000-4000年ほど存在する



針鉄鉱
 (Siderite)
 化学式: FeCO₃
 比重: 4.9
 硬度: 3.5-4.5
 産地: 高師台、豊橋市

古代製鉄技術の発展からは非常に乏しいが、
 針鉄が自然にできるものひとつの「天然赤鉄鉱」があったのではないかと、
 針鉄の一種「高師小僧」に由来するものがあるのではないかと推定されている



高師台、高師草が殖した土にバクテリアの存在で、
 葦の根りなどに生着し成長した褐鉄鉱の一種
 針鉄鉱が主成分の鉄鉱として3000-4000年ほど存在する



昔 葦原だったところに鉄分を含んだ水が吸い寄せられ、その根の周りにリング状に水酸化鉄として析出。褐鉄鉱
 豊橋市高師台や北海道足寄・滋賀県等でも産する。
 豊橋市高師台の「高師小僧」は天然記念物